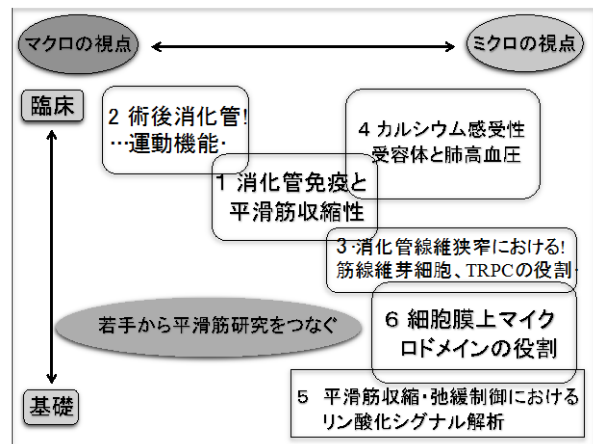


日本平滑筋学会「若手の会」設立記念シンポジウムを終えて

第55回日本平滑筋学会総会にてとり行われました「若手の会」設立記念シンポジウムについてご報告申し上げます。「若手の会」は、日本平滑筋学会を若手から盛上げていくことを目標に設立され、「若手から平滑筋研究をつなぐ」をメインテーマに掲げています。そのような中、今回の設立記念シンポジウムでは、古くからの日本平滑筋学会の重要テーマであります基礎と臨床との融合を

縦軸に、本総会のテーマであった平滑筋研究におけるマクロの視点、ミクロの視点を横軸に配置し、「臨床から基礎へ」「マクロの視点からミクロの視点へ」という方向性の観点から若手の会シンポジウムを計画致しました。まず(1)「消化管免疫と消化管平滑筋収縮性変化に関する研究」(九州大学・伊原栄吉)に始まり、(2)「臨床から紡ぐ平滑筋研究：術後消化管運動回復における術後硬膜外腔への麻薬投与の効果に関する研究」(東京慈恵医科大学・仲吉朋子)、(3)「クローン病などの慢性炎症に伴う消化管の炎症・線維化狭窄における線維芽細胞 TRPC チャンネルの制御機構に関する研究」(福岡大学・倉原琳)、(4)「カルシウム感受性受容体と肺高血圧症：カルシウム感受性受容体を肺高血圧症の新規治療の標的とした研究」(金城学院大学・山村彩)、(5)「平滑筋収縮・弛緩制御の分子機序の解明を目指したリン酸化シグナル解析：ミオシン制御軽鎖の二重リン酸化を伴う収縮及びリン酸化に依存しない収縮反応に関する生化学的な研究」(旭川医科大学・竹谷浩介)とつなぎ、最後に(6)「血管平滑筋異常収縮の病的シグナル伝達における細胞膜上マイクロドメインの新規機能：血管平滑筋異常収縮におけるマイクロドメインの役割に関する研究」(山口大学・加治屋勝子)で締めくくりました。6人のシンポジストのそれぞれの平滑筋研究の位置づけを考えた場合、単独の研究では、臨床、基礎、マクロの視点及びミクロの視点のすべての領域を網羅することは到底できませんが、たとえ若手の研究ではあっても、平滑筋をテーマとする研究は互いになにかしら繋がっており、互いに刺激、協力し合うことで、この後の平滑筋研究が発展していく可能性を感じました。また本シンポジウムにおいては、会場からも沢山の質問を頂



臨床から紡ぐ平滑筋研究：術後消化管運動回復における術後硬膜外腔への麻薬投与の効果に関する研究」(東京慈恵医科大学・仲吉朋子)、(3)「クローン病などの慢性炎症に伴う消化管の炎症・線維化狭窄における線維芽細胞 TRPC チャンネルの制御機構に関する研究」(福岡大学・倉原琳)、(4)「カルシウム感受性受容体と肺高血圧症：カルシウム感受性受容体を肺高血圧症の新規治療の標的とした研究」(金城学院大学・山村彩)、(5)「平滑筋収縮・弛緩制御の分子機序の解明を目指したリン酸化シグナル解析：ミオシン制御軽鎖の二重リン酸化を伴う収縮及びリン酸化に依存しない収縮反応に関する生化学的な研究」(旭川医科大学・竹谷浩介)とつなぎ、最後に(6)「血管平滑筋異常収縮の病的シグナル伝達における細胞膜上マイクロドメインの新規機能：血管平滑筋異常収縮におけるマイクロドメインの役割に関する研究」(山口大学・加治屋勝子)で締めくくりました。6人のシンポジストのそれぞれの平滑筋研究の位置づけを考えた場合、単独の研究では、臨床、基礎、マクロの視点及びミクロの視点のすべての領域を網羅することは到底できませんが、たとえ若手の研究ではあっても、平滑筋をテーマとする研究は互いになにかしら繋がっており、互いに刺激、協力し合うことで、この後の平滑筋研究が発展していく可能性を感じました。また本シンポジウムにおいては、会場からも沢山の質問を頂

戴し、大変活発な議論が繰り広げられました。シンポジウムに関するアンケート調査によれば、会場の約 85 %の方が「大変満足」または「満足」と答えて頂き、「若手の会」に対して、沢山の激励のお言葉を頂きました。アンケートにて頂戴しました厳しいご意見も、次に繋がる建設的なものばかりで、全体を通して皆様の熱いご支持を頂いたと感じております。ただ 1 つの問題点として、今回のシンポジウム参加者の約 70%が 50 歳以上であり、次回はもっと多くの若手研究者に参加してもらう為の工夫をすることが、今後の課題となりました。詳しいアンケート結果は、日本平滑筋学会のホームページにて紹介しております。そして大変嬉しいことは、今回の総会を終えて、新しく 3 人の「若手の会」会員が増えることになりました。会員は、随時募集しておりますので、ご興味がございます方は若手の会事務局（旭川医科大学・竹谷浩介：ktakeya@asahikawa-med.ac.jp)までご連絡頂ければ幸いです。

最後になりますが、この場をお借りしまして、本シンポジウムを開催する機会を快く与えて下さいました、本学会理事長・春間賢教授、本総会会長・高井章教授、そして本シンポジウムに参加してシンポジウムを支えて下さいましたすべての会員の皆様に対し、「若手の会」会員一同、深く感謝致します。